

## 鳥取市議会福祉保健委員会会議録

会議年月日	令和7年9月19日（金曜日）		
開 会	午前9時59分	閉 会	午後2時52分
場 所	市役所本庁舎7階 第1委員会室		
出席委員 (8名)	委員長 勝田 鮮二 副委員長 加嶋 辰史 委員 岡田 実 西尾 彰仁 岩永 安子 魚崎 勇 平野真理子 岡田 信俊		
欠席委員	なし		
委員外議員	なし		
事務局職員	庶務係主幹 杉本 裕未	議事係主任 福田 佳菜	
出席説明員	<b>【福祉部】</b> 福祉部長 藏増 祐子 次長兼地域福祉課長 山内 健 地域福祉課課長補佐 清水 圭二 次長兼長寿社会課長 松本 縁 長寿社会課課長補佐 渡邊 聡 障がい福祉課長 栢谷 承文 障がい福祉課課長補佐 前岡 和憲 生活福祉課長 西垣 隆司 生活福祉課課長補佐 谷村 彰彦 次長兼保険年金課長 池上 朱美 保険年金課課長補佐 竹内 大  <b>【健康こども部】</b> 健康こども部長 竹内 一敏 こども家庭局長兼こども未来課長 小野澤裕子 こども未来課課長補佐 山根 径 幼児保育課長 濱田 寿之 幼児保育課課長補佐 岡本 芳奈 こども家庭センター所長 森田 誠一 こども家庭センター所長補佐 加藤 敦子 鳥取市保健所長 長井 大 保健所副所長兼保健総務課長 光浪佐紀子 保健総務課課長補佐 加藤 るつ 保健医療課長 雁長 悦子 保健医療課課長補佐 尾崎真奈美  <b>【市立病院】</b> 病院事業管理者 平野 文弘 副院長兼事務局長 小林 俊樹 事務局次長兼総務課長 松田 真治 事務局総務課業務管理室長 波多野 哲 事務局医事課長 谷口 智章 事務局医事課デジタル推進室長 山根 寿彦 事務局総務課課長補佐 谷口 賢司 事務局医事課課長補佐 和口 豊実		
傍 聴 者	なし		
会議に付した事件	別紙のとおり		

午前 9 時 59 分 開会

【市立病院】

◆勝田鮮二委員長 それでは、時間少し早いようでございますが、皆さんおそろいですので始めたいと思います。ただいまから福祉保健委員会を開会いたします。本日の日程ですが、まず、市立病院の議案審査の後、福祉部、健康こども部の順に進めてまいります。それでは、審査に入ります前に、平野病院事業管理者より挨拶をいただきたいと思います。平野管理者。

○平野文弘病院事業管理者 おはようございます。市立病院事業管理者の平野です。お世話になります。暑かった夏もちょっとやっとかさ、やれやれという感じにまで気温が落ちて、ただ、湿度が高いためか、ちょっともわんとしとるというのが今日の天気かなというような思いをしております。

市立病院のほうからは、9月の8日月曜日の日だったのでしょうか、説明をさせていただきましたが、議案第105号ということで病院事業会計補正予算、この補正の中の3点、債務負担行為の期間延長が2点と、電子カルテの導入更新が新規で1点、それから議案第120号はドックの料金の改正ということで提案させていただいております。

9月8日の日に既に各担当のほうから議案のほうは説明させていただいておりますので、御審議のほど、よろしくお願ひしたいという具合に思います。どうぞよろしくお願いいたします。

◆勝田鮮二委員長 それでは審査に先立ちまして申し上げます。質疑及び説明、答弁は簡潔にさせていただきますよう、執行部及び委員の皆様にお願ひいたします。それでは議案審査に入ります。説明については前回の委員会で既にいただいております。

議案第105号令和7年度鳥取市病院事業会計補正予算（第1号）（質疑・討論・採決）

◆勝田鮮二委員長 それでは議案第105号令和7年度鳥取市病院事業会計補正予算についての質疑を行います。本案について委員の皆様から質疑はございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 契約期間の延長ということで、最初の2つの議案、105号についてから始まるんですね。議案105号の契約期間の延長というのが2つあります。医薬品、診療材料一括購入及び管理業務と滅菌消毒業務は、今まで3年間だった契約を5年に延長して契約するというものなんですけど、これ3年の予算を割り算して2年延長したらちょうどこの金額になるんですけど、全く賃金とか、値上がりが考慮していない契約ということなんだなと。だから、それがメリットなのかなというふうに思ったんですが、そのように理解したらいいのでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 波多野室長。

○波多野 哲総務課業務管理室長 業務管理室の波多野です。最初にこの3年間で出させていただいた分に、既に人件費等のある程度の値上がり分というのは加味してさせていただいております。ただ、これから5年というところでどう動くかまだ分からない部分でというところもありますので、今の、取りあえず目指せるところまでを組ませていただいている。その分で今回2年間延長ということで、そこは現状維持という形で組ませていただいております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 今、受けていただいている業者に、こういうことでどうだろうかということこれから持ちかけるといふか、5 年に延長したいけど可能かどうかという話をするというふう理解したらいいんでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 波多野室長。

○波多野 哲総務課業務管理室長 業務管理室の波多野です。業者のほうには、ある程度聞き取りというのはさせていただいてるんですけども、そこが 3 年か、5 年かという話も協議の中ではさせていただいております。この御時世、やっぱり物価高騰、人件費上昇ということで、やっぱり短い期間より長い期間のほうがいいですという話は受けております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 いいですか。そのほかございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 それでは以上で質疑を終了します。討論はございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 討論なしと認め、討論を終結します。それではこれより議案第 105 号令和 7 年度鳥取市病院事業会計補正予算を採決します。本案に対し賛成の方は挙手を願います。

（賛成者挙手）

◆勝田鮮二委員長 挙手全員と認め本案は原案のとおり可決すべきものと決定しました。

#### 議案第 120 号鳥取市立病院使用料及び手数料条例の一部改正について（質疑・討論・採決）

◆勝田鮮二委員長 それでは続きまして議案第 120 号鳥取市立病院使用料及び手数料条例の一部改正についての質疑を行います。本案について、委員の皆様から質疑はございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 まず、改正に伴う影響ということで、年間 3,000 人の利用者で 660 万の増額を見込んでいるということですが、令和 6 年の市立病院の人間ドックの利用者の数と、それからどういう保険の人がこの市立病院の人間ドック受けとられるのかっていうようなところを教えてください。

◆勝田鮮二委員長 松田次長。

○松田真治次長兼総務課長 事務局次長松田でございます。令和 6 年度の実績ということでお答えさせていただきます。人間ドックの利用者の総数が 3,731 名ございまして、内訳は、国保の方が 695 名、こちら今回の料金改正の対象ではございませんが 695 名、それから団体というふうに内訳しておりますが、主に共済、市町村共済とか、教職員の共済組合とか、あと大企業です、NTT さんとか、鳥銀さんとか、健保組合をお持ちの保険の方が 2,721 名で、あと個人で満額払っても受けたいという方が 315 名ということでございまして、大体今回の対象になる方が 3,000 名強の人数が昨年の実績でございますので、ざっくり 3,000 人と書いておりますけれども、それ以上の増収を期待して見込んでおるといふことでございます。以上です。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 診療報酬に置き換えた場合は 4 万 7,601 円になるという説明でした。今回 4 万 8,000 円とか、4 万 7,000 円とかではなくて、4 万 2,000 円の消費税で 4 万 6,200 円という提

案なのはどういうことでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 松田次長。

○松田真治次長兼総務課長 事務局次長松田です。ドックをやっている総合病院、県立中央病院、鳥取赤十字病院、生協病院とありますけど、いずれも競合相手ですので、それ以上の値上げになるとやはりお客さんが離れていくということがございますので、今、中央病院と日赤さんが 4 万 6,200 円でやっておられますので、同額まで引き上げるということで設定をしております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 国保の人間ドックとは関係ないということでした。個人の人って 315 人あるっていうことでした。4 万 4,000 円払ってでもやっぱり市立病院の健診がいいなということで、人間ドックがいいなということで受けていらっしゃる方だというふうに思います。どういう経緯というか、で受けていらっしゃる方があるのか、あるいはどんな年代の方なのかとか、そんなん分かりますか。

◆勝田鮮二委員長 松田次長。

○松田真治次長兼総務課長 事務局次長松田です。顧客層についての分析はちょっとできておりませんが、比較的所得の高い方、当然満額払って、助成金なしで満額払って受けられる方ですので、というふうには聞いておりますし、後期高齢者の方がドック事業というのが対象にならないので、そういった方ですと市立病院で現役時代ドックを受けている方が引き続き来られるとか、そういう方がおられるというふうには聞いております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 それではなしということで、以上で質疑を終了します。討論はございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 現役時代、つまり市立病院で多分治療につながったり、あるいは人間ドック受けて、ドクターとのつながりだとか、健康を何とか維持したいということで受けていらっしゃる方だと思います。後期高齢者の方というのも多いと思います。年間使用料、増額も 660 万ということですし、むしろ今の価格を維持して、できるだけ続けて、あるいはもっと健診を、人間ドックを受けていただくということにつなげることが大事じゃないかと思います。

特に、今、物価高でいろいろどこを削ろうかというときですので、健康を守っていただくための、確認をしていただくためのドックを引き続き受けていただけるように、今のままの金額でやるべきだというふうに思います。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。平野委員。

◆平野真理子委員 私は賛成の立場です。といいますのは、改正の目的に書いてありますように、人件費、材料費の高騰を受け、使用料の額を改正するということです。これは病院側としても必要なことだと思います。また、先ほどの質疑の説明の中で約 3,000 人、でも多く見たら 3,000 人以上の見込みがあるというふうに考えますし、その中でこの金額上げたことによって、この 3,000 人が減っていくってということにはならないのではないかなっていうふうに考えます。

先ほど反対討論でもありました、今までの流れの中で受けておられる方っていうのがあるということで、もしもこの方々が非常にお困りで、これ上げることによって離れていくっていうことであるならば考えなければならぬと思うんですが、そのところもよく考えながらこの事業だと思えますけれど、大方その内容についてよその総合病院と比べてもそこを出ないようにするとか、また、鳥取生協病院の場合は今 4 万 4,000 円で行かれていますけども、これがこのままいくかどうかいうのも、ちょっと私には分かりませんが、この件については賛成したいというふうに考えます。以上です。

◆**勝田鮮二委員長** そのほかございますか。以上で討論を終結します。これより議案第 120 号鳥取市立病院使用料及び手数料条例の一部改正についてを採決します。本案に対し賛成の方は挙手をお願いします。

（賛成者挙手）

◆**勝田鮮二委員長** 挙手多数と認め本案は原案のとおり可決すべきものと決定しました。以上でよろしいでしょうか。そのほか何かありますか。では、これで市立病院を終了します。市立病院の皆様は退席ください。

#### 【福祉部】

◆**勝田鮮二委員長** それでは引き続き福祉部に入ります。まず、蔵増福祉部長より挨拶をいただきたいと思います。蔵増部長。

○**蔵増祐子福祉部長** 福祉部蔵増でございます。本日は 9 月 8 日の前回の委員会に御説明を申し上げました議案に加えまして、9 月 17 日に追加の補正予算を計上させていただいております予算議案が 1 件ございます。追加提案させていただきました議案第 128 号は令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算のうち、福祉部の関係といたしましては、低所得世帯への光熱費等の一部を助成を行う経費を計上させていただいております。詳細につきましては担当課長より御説明を申し上げます。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

◆**勝田鮮二委員長** それでは、審査に先立ちまして申し上げます。質疑及び説明、答弁は簡潔にさせていただきますよう、執行部及び委員の皆様をお願いいたします。

#### 議案第 100 号令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算（第 2 号）のうち所管に属する部分（質疑・討論・採決）

◆**勝田鮮二委員長** それでは議案審査に入ります。説明については前回の委員会で既にいただいております。それでは議案第 100 号令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分についての質疑を行います。本案について委員の皆様から質疑はございますか。岡田実委員。

◆**岡田 実委員** 岡田でございます。事業別概要書の 18 ページの下段に当たります地域介護・福祉空間整備等補助金についてのこれ確認になるんですけども、これ新しくできた交付金の制度ということで、厚労省のほうの制度を見るときに、この中に、この補助金を活用するに当たってなんですが、防災・減災等市町村事業整備計画っていうものを作成することができるって

うふうな形で書いてあるものがありまして、これっていうのは本市のほうではこの事業するに当たってなんですけども、こうした計画っていうものがつくられたかどうかの確認です。お願いします。

◆勝田鮮二委員長 松本次長。

○松本 縁次長兼長寿社会課長 長寿社会課松本です。この整備につきましては事業者さんがそういう整備をされるということで、事業者さんがその整備される内容というものを計画として位置づけて申請のときには申請書類のほうに書かせていただいている現状がありまして、これに限って特別そういった、この補助金を交付するに当たって、鳥取市のほうで具体的に整備計画というものはつくっておりません。以上です。

◆勝田鮮二委員長 よろしいですか。

◆岡田 実委員 はい、ありがとうございます。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。岡田信俊委員。

◆岡田信俊委員 事業別概要書18ページの上です。この事業、地域住民同士のつながりが薄くなったり、福祉活動の担い手が不足しちゃっておると、いわゆる地域力が低下しておって、その福祉活動の活性化を図らないといけんと、何とかせないけんとということであると思うんですが、具体的な事業はどんなようなものか、それで、その効果がどういふもんがあったかってなことをまずはお願いします。

◆勝田鮮二委員長 山内次長。

○山内 健次長兼地域福祉課長 地域福祉課山内でございます。先ほど岡田信俊委員のほうからこの地域の「話し愛・支え愛」推進事業の具体的な中身とその効果といった御質問でございました。このたびの事業別概要書にはその補正予算の内容しか書いていませんので、少し説明をさせていただきたいというふうに思います。まず、事業の概要といたしましては、先ほど委員さんのほうから御紹介いただいたように、その地域住民の方々の結びつきが弱くなっている中で、地域住民自らが身近な福祉課題に気づいていただいたり、支え合いなどの福祉活動の活性化を図るために地域における福祉の話し合い、しゃべり場、支え合い、ささえ場、学び、まなびの場、そういった3つの場づくりをモデル地区を選定して鳥取市社会福祉協議会と協働して推進するといったような事業になっております。

もう少し具体的に言いますと、モデル地区の選定ということですが、令和3年度～5年度、3か年にわたりまして城北地区と湖南地区をモデル地区といたして実施をいたしました。これはコロナの期間だったものですから、当初2年の予定を1年延長して3年～5年としたものでございます。あと、令和5年～6年の2か年につきましては明德地区と東郷地区で実施いたしました。現在は令和6年度から修立地区と美保南地区で今現在7年度ということで、合計6地区で実施をしていっております。

その効果といたしましては、その話し合いの場をつくられたりとか、地域住民の方にアンケートを取られたりとか、また、その地域内のいろんな福祉関係の団体等を紹介される冊子を作って配布をされたりとか、そういったような取組というものをされております。そういったことの取組が、モデル事業が終わっても継続していただいているというふうには認識はしており

ます。ただ、やはりモデル事業ということで集中的に、いわゆる社協の職員が支援に入っておりますので、モデルが終わると、その職員がいなくなるとやっぱりなかなかいろんな活動の継続の困難っていうことは感じてはおられるということも伺っておりますので、令和8年度以降の取組について、いろいろちょっと検討はしていきたいなというふうには思っております。取りあえず以上です。

◆勝田鮮二委員長 岡田信俊委員。

◆岡田信俊委員 分かりました。モデル地区を選定しておられると。来年度以降、新年度以降どうされるかって聞こうと思ったんですけど、今、いいですか。じゃあ、お願いいたします。

◆勝田鮮二委員長 山内次長。

○山内 健次長兼地域福祉課長 地域福祉課山内です。次年度以降ということなんですけども、今現在6年度、7年度、修立地区と美保南地区ということは先ほど御紹介させていただきました。一応7年度でこのモデル事業としては終了いたしまして、令和8年度からは、今現在、地域福祉推進計画のほうで、いわゆる地域のネットワークづくりというものを進めていこうという計画をしております。そういった中で、そのネットワークづくりを進めていただくための、やはり検証的な取組をもう少し継続していきたいなというふうに思っておりまして、そういった事業に関わるものを8年度以降は少し概要を変えて、組立てもし直して考えたいというふうに思っておりまして、この「話し愛・支え愛」推進事業としては一応7年度で終了ということと考えております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 岡田信俊委員。

◆岡田信俊委員 分かりました。ありがとうございます。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。西尾委員。

◆西尾彰仁委員 私は軽費老人ホーム運営補助金で、今回補正で124万2,000円が上がっております、1人当たり5万4,000円の補助金ということで生活相談員と介護職員ということで、この5万4,000円、ちょっと少ないような気もするんですが、この根拠となった金額、5万4,000円の根拠とはどのような計算でされているのかを教えてください。

◆勝田鮮二委員長 松本次長。

○松本 縁次長兼長寿社会課長 長寿社会課松本です。この5万4,000円の単価ですけども、このたび補正で計上しております補助金につきましては、国の介護人材確保・職場環境改善等事業が踏まえられた内容で改定をするようにといったような内容で国のほうから通知をいただいております、国のほうに改定の考え方ですとか、そういった金額の算定方法というところの記載があります。

というのが、国がしている事業と同じようなこういった処遇改善に向けた補助をしてくださるということに基づいております、国の処遇改善に係る補助金でこういった軽費老人ホームの職員さんの処遇改善であったり、職場改良をした場合は年間5万4,000円の額でというようにところで計算っていいですか、算定がされておまして、そこを踏まえて補正予算を上げさせていただいているというところになります。ちょっと具体的な計算方法等はちょっと細かくて、率とか処遇改善に、もともと介護報酬の改定からずっと処遇改善を図ってくる中での取組

になりますので、そういった国の通知を踏まえて、単価のほう決めさせていただいております。  
以上です。

◆勝田鮮二委員長 西尾委員。

◆西尾彰仁委員 国の通知を受けてということです。これ上がつとる金額は全部一般財源なんですよね。交付税算定とかされるんならいいけども、だから、この辺はちょっと、国は通知しとるんだけど、じゃあ、市町村で考えということなのかと思つてのもんです。5 万 4,000 円が高いのか、安いのかというところはちょっと考えるところはありますけども、了解、分かりました。  
以上です。

◆勝田鮮二委員長 松本次長。

○松本 縁次長兼長寿社会課長 長寿社会課松本です。すみません。説明が不足しておりました。  
この一般財源につきましては交付税措置がされるということが通知の中に明記されているものでございます。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。岡田実委員。

◆岡田 実委員 岡田でございます。先ほどの、今の質問にまた、重ねてのちょっとこれ質問なんですけども、この 5 万 4,000 円を補助したその事業者側の使途、使い方なんですけども、これは人件費だけに、処遇改善だけに特化したものなのか、先ほどこちよと言われたかと思うんですけど、職場改良とかいうふうにもさっき聞こえたんですが、要は人件費以外にも、使用することができる性質のものなのかという辺りの確認をお願いします。

◆勝田鮮二委員長 松本次長。

○松本 縁次長兼長寿社会課長 長寿社会課松本です。補助受けられた事業者側の方が処遇改善ですとか、職場環境改善といったようなところで御利用いただくということで補助のほうをどういうふうに、こういった処遇改善等に生かされるかっていうところは計画をされるということになっておりまして、人件費だけにこの分を丸々充てるというわけではなくて事務の効率化を図るための取組ですとか、そういったことに使われるということで補助のほうを要件としております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副委員長 開政の加嶋です。事業別概要書は 20 ページの上段、障がい福祉課さんにお尋ねします。この水中自動掃除機なんですけども、まず、どういった作業ができるのか、この水中掃除機を使うことで光熱費の削減につながっているのか、人間のする仕事の省力化につながっているのかということ踏まえまして、この水中掃除機を導入する 51 万 7,000 円以上の効果が見込まれるものなのかどうかをお尋ねします。

◆勝田鮮二委員長 枅谷課長。

○枅谷承文障がい福祉課長 障がい福祉課枅谷です。加嶋議員より御質問いただきました。この水中自動掃除機ですが、プールの底をずっと移動していきまして、水を吸い込んで、フィルター、網で浮遊物を取り除いて、また、水を上から放出するというようなことをやっておりまして、水中の衛生環境の向上というような効果がございます。光熱費の削減につきましては、むしろ電気代がかかるということでプラスにはなりますが、このロボットがなければスタッフが



人力でたも、網で浮遊物をすくっていかないといけないということがございますので、自動でそういった浮遊物、髪の毛ですとか、水中の底に落ちた砂とか、ちょっとぬめりとか、そういったものを取り除く効果があると考えております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副委員長 質問重ねてしまいますけれども、そういった面から人力で、人がすることと思うと、その省力化を考えたら導入経費がその人件費やお仕事の省力化の効果のほうが上というふうに考えてよろしかったでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 枡谷課長。

○枡谷承文障がい福祉課長 障がい福祉課枡谷です。すみません。答弁が不足してまして申し訳ありませんでした。そうですね。今のところは週 1 回、木曜日の午後に自動掃除機で掃除をして水中のごみを除去しているということになりますが、このロボットがなければ毎日スタッフのほうがたもですくっていかないといけない。プラス、特にプールの真ん中辺りは、なかなか取れない、除去できないところもございまして、完璧ではないということもございまして、まず、スタッフの人力の省力化、プラスしてプールの水の水質の向上という効果があると考えております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 今の水中自動清掃機なんですが、いつ購入されたもので、交換部品もなく、その効果は非常に認識しているんだけど、壊れるまで限りなく使ったということなんですけど、いつの納入のものなのか、それと今、どうしているのかということを教えてください。

◆勝田鮮二委員長 枡谷課長。

○枡谷承文障がい福祉課長 障がい福祉課枡谷です。この水中自動掃除機につきまして壊れたものにつきましては備品の扱いをしているんですが、23 年の登録ということになりまして購入から約 14 年近くが経過をしているというものになります。昨年辺りから少し動きが悪いというような報告は受けとったところですけども、既に 6 月上旬には動かなくなってしまいまして、先ほど申しましたとおり、水中環境の衛生環境向上ということと、スタッフの人力の省略化ということもありまして既決予算で流用して対応はさせていただいたということになります。それで、現在 8 月上旬には既に新しいものが稼働しているという状況でございます。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。それでは以上で質疑を終了します。討論はございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 討論なしと認め討論を終結します。これより議案第 100 号令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分を採決します。本案に対し賛成の方は挙手をお願いします。

（賛成者挙手）

◆勝田鮮二委員長 挙手全員と認め本案は原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議案第 102 号令和 7 年度鳥取市国民健康保険費特別会計補正予算（第 1 号）（質疑・討論・採

決）

◆勝田鮮二委員長 それでは引き続きまして議案第102号令和7年度鳥取市国民健康保険費特別会計補正予算についての質疑を行います。本案について委員の皆様から質疑はございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 事業別概要の68ページになります。それから、説明いただいた資料をいただきました。賦課データベースのシステム変更のために、住民情報系システム、2重業務のうちの国保のシステムと、それから後期高齢者医療制度のシステムを変更するための補正予算ということです。これはまず、国保料の賦課徴収システムに加算する形で徴収することになるんじゃないか。

◆勝田鮮二委員長 池上次長。

○池上朱美次長兼保険年金課長 保険年金課池上です。岩永委員からお尋ねの国民健康保険料の賦課データベースを追加というか、変更という形になると思います。現在、国民健康保険料を計算するデータベースがありまして、そこにこの子ども・子育て支援金の計算をするためのデータベースを変更する形になります。以上です。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 変更する形になるということなので、加わった形で徴収することになるということだと思います。それから、総額、いただいた資料で、今年度は6,000億円という、令和8年度から、資料で、段階的に増額になるんだけど、今年度じゃないな、令和8年度は6,000億円規模となる予定ですということなんですけど、これは具体的な今、金額設定というのは1人頭、示されているんでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 池上次長。

○池上朱美次長兼保険年金課長 保険年金課池上です。資料のほうに書かせていただいております令和8年度、これは国全体で6,000億円を予定、その規模になる予定だということが国のほうのホームページに掲載をされておりまして、具体的な1人当たりの金額というのも国が示されているところでは、国が試算をされた1人当たりの平均月額ということで、国民健康保険では、令和8年度は1人当たり250円というふうに国のほうは試算をされておりますが、これはあくまで国全体で平均的なものを出されたものでして、実際には所得によっても変わってきますし、具体的な金額というのはまだ、今の時点では分かっておりません。以上です。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 そうすると250円という、平均250円というのは出されているけども、所得によったり、それから計算式は示されているというふうに理解したらいいですか。

◆勝田鮮二委員長 池上次長。

○池上朱美次長兼保険年金課長 保険年金課池上です。計算式は、これは納付金として県から今、市町村のほうに各保険者に納付金をお支払いするんですけど、そこの中に加わってくる形になりますので、まず、国のほうからは県に対してその納付金を計算する数式というか、計算する形は県のほうには示されてくるのではないかと考えているんですが、今の時点ではちょっとまだ私たちのほうは分かっておりません。具体的な数式というのは、保険料の計算で所得割とか、平

等割、均等割がありますので、そういったところに子ども・子育て支援金分が、今は後期高齢者支援金分と、それから医療費分とがありますけど、そこに子ども・子育て支援金分として加わってきますので、計算としては、そういう国保料を計算する仕組みと同じような形になりますけども、先般ちょっと一般質問でも伊藤議員さんからお尋ねをいただきまして、18歳までの子供に係る部分は、この子ども・子育て支援金はかからないように国のほうは設定をされていますので、そういったところが少しほかの保険料とは変わってくるところかなと思っております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 18歳未満でかからなかったところは、ほかのところで補填する格好になるので。最後の質問です。税金ではないんですけど、免除だとか、減免の制度というか、システムというか、そういうのは想定されているのでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 池上次長。

○池上朱美次長兼保険年金課長 保険年金課池上です。岩永議員さんからの子ども・子育て支援金に対する減免ということのお尋ねだと思います。国民健康保険料の今、7割、5割、2割という軽減があります。この軽減はこの子ども・子育て支援金にも同じように軽減がかかることになっております。また、未就学児については2分の1軽減が、今、均等割にかかっておりますが、それが同様にかかるというような仕組みであります。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。それでは以上で質疑を終了します。討論はございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 子ども・子育て支援金、子供たちを本当に社会で育てていこうという理念はもつともだと思いますし、本当に健やかに生まれる、育つ、支援していかないといけないと思いますが、それをみんな国民から徴収するという制度としたので、今回のシステム変更が発生するということだと思います。そのシステムの変更だから国が国庫負担で行うのは当然だと思いますが、その作られたシステムによって、これから、令和8年から支援金として全てこれは国保の制度ですけれど、国保の被保険者に、加入者にかかってくるということなので私は大きな負担増になります。反対します。

◆勝田鮮二委員長 西尾委員。

◆西尾彰仁委員 私は賛成のほうで討論させていただきます。やはり次世代を担う子供たちをしっかり持続可能な国保で支えていくというのがやっぱり理想的ではないかなと思います。国や県や市が全額出してというんでなく、さっき国の試算で250円って言われましたので、それは所得が高い人にはそれなりになると思いますが、介護保険なんかと違って65歳以上の場合にはなったらかかるのとは違って、子供っていうのは次世代をつなぐ、日本のこれからをつなぐ意味もあるので持続可能な措置ではないかと考えます。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。平野委員。

◆平野真理子委員 賛成の立場で討論いたします。先ほどもありましたように、この社会で子供を育てていくという理念については、賛成だという討論もありましたけれども、まさしくこの子ども・子育て支援ということは、国で今後考えていき、また、そのためにはどうしても財源

が要ります。その財源をどこから持ってくるかということ国で考えられ、この保険料から賄っていただくということになったというふうに理解しております。中にはよくネットのほうでは、すみません。忘れたんですけど、ちょっと勘違いするような名前で税を負担するというのを言われているんですけども、何だか、すみません。申し訳ない。忘れてしまったんですけども、やはりこれからの、もうまさしくこれからのこの国、社会を担っていく子供たちを、例えば今の財源の中で、どうやってひとり親家庭を支えたりとか、また、所得の少ない人を支えたりとか、これから子供をつくっていこうということを考えている人たちを本当に支えていくための、ちょっと長くなりました、失礼。財源の確保という意味でのこの考え方ですので私は賛成いたします。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副委員長 開政の加嶋です。賛成の立場で討論させていただきます。先ほどの岩永委員の質疑でもありましたが、国保と同じく軽減措置はされておりまして、そのことを鑑みると、消費税の増税で財源をつくると、そこは逆進性が高いというふうに主張された方が多い中、制度設計が考えられているのかなと、そういったところで平均が先ほど、西尾委員の討論にもありましたが、国民の平均 250 円が目安とされていますけども、そこについて当然国保を負担されてない方は払わないわけですし、その収入に応じてその金額は変わってくるというわけですので、負担できる方が負担してこれからの世代を支えていくというシステムの改善には賛成をしていくものであります。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。それでは以上で討論を終結します。これより議案第 102 号令和 7 年度鳥取市国民健康保険費特別会計補正予算を採決します。本案に対し賛成の方は挙手をお願いします。

（賛成者挙手）

◆勝田鮮二委員長 挙手多数と認め本案は原案のとおり可決すべきものと決定しました。

#### 議案第 103 号令和 7 年度鳥取市介護保険費特別会計補正予算（第 1 号）（質疑・討論・採決）

◆勝田鮮二委員長 それでは、引き続きまして議案第 103 号令和 7 年度鳥取市介護保険費特別会計補正予算についての質疑を行います。本案について委員の皆様から質疑はございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 それでは質疑なしと認め質疑を終結します。討論はございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 討論なしと認め討論を終結します。これより議案第 103 号令和 7 年度鳥取市介護保険費特別会計補正予算を採決します。本案に対し賛成の方は挙手をお願いします。

（賛成者挙手）

◆勝田鮮二委員長 挙手全員と認め本案は原案のとおり可決すべきものと決定しました。

#### 議案第 104 号令和 7 年度鳥取市後期高齢者医療費特別会計補正予算（第 2 号）（質疑・討論・採決）

◆勝田鮮二委員長 引き続きまして議案第 104 号令和 7 年度鳥取市後期高齢者医療費特別会計補正予算についての質疑を行います。本案について委員の皆様から質疑はございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 いただいた資料 11 ページを見とって、先ほど、国保の場合は令和 8 年度平均 250 円だと言われていましたが、その 250 円というのは後期高齢者医療保険も同じでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 池上次長。

○池上朱美次長兼保険年金課長 保険年金課池上です。国が示されております子ども・子育て支援金の試算ですが、1 人当たりの平均月額で後期高齢者医療制度においては、令和 8 年度は 1 人当たり 200 円というふうに国は試算をされております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 令和 8 年は 200 円、令和 9 年は、国は 8,000 億円、令和 10 年は 1 兆円規模となるというふうに国保の資料のところにありました。後期高齢者の場合は、令和 8 年は 200 円だけど、これの計算でいくと 9 年、10 年はどうなるのかというのを教えてください。

◆勝田鮮二委員長 池上次長。

○池上朱美次長兼保険年金課長 保険年金課池上です。後期高齢者医療制度においては、令和 9 年度は 250 円、令和 10 年度は 350 円というふうに国のほうでは試算されております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 よろしいですか。

◆岩永安子委員 はい。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 それでは以上で質疑を終了します。討論はございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 先ほど、国保のところでシステム変更のことが同じように後期高齢者医療制度でシステム変更をしていくということだと思います。令和 8 年の 200 円で終わるわけではなくて、金額も上がっていく。後期高齢者の保険そのものが本当に高く、来年も上がるんじゃないかって言われているような状況の中で、やっぱりこれは子ども・子育て支援金として、高齢者に賦課するものではなくて、きちんと国が財源を作るものだというふうに思います。よって、そのためのシステム変更ですので反対します。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。平野委員。

◆平野真理子委員 はい。私は賛成の立場で討論いたします。先ほどの国保と同じように、子ども・子育てのための財源として保険料を使っていくという考え方ですので、賛成いたします。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。それでは以上で討論を終結します。これより議案第 104 号令和 7 年度鳥取市後期高齢者医療費特別会計補正予算を採決します。本案に対して賛成の方は挙手をお願いします。

（賛成者挙手）

◆勝田鮮二委員長 挙手多数と認め本案は原案のとおり可決すべきものと決定しました。

**追加提案**

**議案第 128 号令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算（第 3 号）のうち所管に属する部分（説明・質疑・討論・採決）**

◆**勝田鮮二委員長** それでは続いて追加提案に入ります。議案第 128 号令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分について執行部の説明をお願いします。西垣課長。

○**西垣隆司生活福祉課長** 生活福祉課西垣です。それでは生活福祉課の事業について御説明いたします。説明資料は 9 月追加補正予算案の事業別概要 7 ページ下段の低所得者等への光熱費助成事業費（生活保護受給世帯分）になります。このたび、鳥取県においては 9 月補正予算にて市町村が物価高騰による家計への影響が大きい世帯へ支援を実施する場合、県・市合わせて 1 世帯当たり 8,000 円、補助率 2 分の 1 とする家計負担激変緩和対策事業を予算計上されており、本市としましても県と協調して事業を実施することで、物価高による影響が大きい生活保護世帯の方の生活への影響を緩和したいと考えているところでございます。

事業の内容としましては、病院及び社会福祉施設に入院又は入所していない世帯に対し、1 世帯当たり 8,000 円を助成するもので、世帯数としては 10 月 1 日を基準日としまして 1,950 世帯を見込んでおります。事業費としましては、助成額の 1,560 万円に郵送料などの事務費を加えまして合計 1,614 万 5,000 円。財源としましては助成額の 1,560 万円の 2 分 1 であります 780 万円に鳥取県の家計負担激変緩和対策事業補助金を活用し、残りは一般財源となります。

今後の事務スケジュールですけれども、9 月定例市議会にて御承認いただけましたら、早急に事務作業に入りまして、10 月末を目途に生活保護世帯への助成を進めたいと考えているところでございます。生活福祉課の説明は以上でございます。

◆**勝田鮮二委員長** 枘谷課長。

○**枘谷承文障がい福祉課長** 障がい福祉課枘谷です。続きまして障がい福祉課の所管に係る 9 月追加補正予算費で御説明いたします。同じく事業別概要 7 ページの上段を御覧ください。低所得者等への光熱費助成事業費（特別障害者手当等受給世帯分）です。こちらにつきましては、事業の経過背景・目的等、先ほどの生活福祉課より説明のありました生活保護受給世帯分と同様でございまして、特別障害者手当、経過的福祉手当、障害児福祉手当及び特別児童扶養手当の各手当の受給世帯のうち、生活保護世帯及び児童扶養手当受給世帯を除きました住民税非課税世帯に対しまして、1 世帯当たり 8,000 円を助成するものになります。

対象世帯は合計で 250 世帯を見込んでおります。補正額は助成額 200 万円に郵送料等の事務費 7 万 4,000 円を加えました 207 万 4,000 円、うち、先ほど同様、助成額部分の 2 分の 1 の 100 万円につきましては、県の家計負担激変緩和対策事業補助金を活用する予定としております。以上でございます。

◆**勝田鮮二委員長** 説明をいただきました。それでは議案第 128 号令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分についての質疑を行います。本案について皆様から質疑はございますか。岩永委員。

◆**岩永安子委員** 下段のほうの生活福祉課の関係ですけど、この 10 月 1 日時点ということで、病

院又は施設に入所の場合は外されるというのはどういう考えからでしょうか。県が言っとるんでしょうけど。

◆勝田鮮二委員長 西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長 生活福祉課西垣です。生活保護基準につきましては、在宅の方には食事部分プラス光熱費部分を支給しております。ただ、例えば入院の世帯の方に対してはそういった光熱費部分について支給しておりません。入院中の日用品を買う費用しかお出ししておりませんので、こういった入院中の方については、光熱費の助成は不要ということで助成のほうはしていないというところでございます。以上でございます。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 私、県がそういうふうに指定しているんでしょうけどって言ったんですが、そういう考え方に基づいて、入院中又は施設に入所している人を外すということを決めたのは市ですか。

◆勝田鮮二委員長 西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長 生活福祉課西垣です。先ほど岩永委員おっしゃられたとおり、県のほうの補助金交付要綱のほうに病院又は社会福祉施設等に入院又は入所している生活保護世帯は除くというふうに書かれておりますので、本市もこれに従って運用しているところでございます。以上でございます。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 はい。県の補助金要綱にそういうふうにあるということで理解をいたしました。が、1世帯当たり 8,000 円で、たまたま 10 月 1 日に入院しとってということ、本当に、ぜひ、勘案していただいて、何とか再度そういう病院又は施設に入所している人も検討していただくように考えていただけないかなと、これは要望です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副委員長 開政の加嶋です。議事に残すために質問をさせていただきますけれども、この金額の 8,000 円というものの算定の基準と、その対象者が世帯になっておりますので、世帯に依じては一人暮らしの世帯もあれば、複数人の世帯もあると思うんですけども、そちらについて一律この金額となっているという理由、算定理由といいますか根拠というのをまず教えてください。

◆勝田鮮二委員長 西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長 生活福祉課西垣です。後段のまず御質問のほうから。これは世帯単位で要綱のほうは助成のほうさせていただくんですけども、これは考え方のほうが光熱水費は世帯で請求されるものというふうなところが根底にございまして、世帯単位というふうになっておるところでございます。あと、最初の御質問の 8,000 円の根拠でございますけれども、鳥取県のほうに確認したところですけども、県のほうは国が電気ガス、ちょっと正式な事業名は忘れましてけれども、電気ガス料金の負担の支援事業、これは実施しておりまして、この支援額を参考に平均的な世帯当たりの消費量を基に、この国の事業が終了した後の影響額を試算しまして、あと、米価の高騰分も配慮しまして現在の金額を決めておるといふふうになっており

ます。説明は以上でございます。

◆勝田鮮二委員長 加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副委員長 お答えをいただきました。その対象となる光熱費が上がっている期間が、例えば今年度の 3 月までの増加分を合計して 8,000 円ぐらいが妥当だろうという助成の費用なのか 1 点と、2 点目で、本当に米価の高騰分が考慮されるっていうような裏づけが、この助成事業にはあったかどうか、念のため確認で 2 点お尋ねいたします。

◆勝田鮮二委員長 西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長 生活福祉課西垣です。具体的な算定方式、算定額というふうなのはちょっと伺ってはいないんですけども、考え方として先ほど申し上げたような考え方で、補助率、補助額というのを定めたのと伺っております。本市としましても県と協調して事業を実施したいというところがございますので、県の考えに基づきまして、本市も事業を実施しようと考えているところでございます。説明は以上でございます。

◆勝田鮮二委員長 加嶋副委員長。

◆加嶋辰史副委員長 開政の加嶋です。もろもろの物価高騰が考慮されているということがお答えいただいた中で分かってきましたが、そうになっていくと生活困窮世帯だけでなく、みんなが困っていることにはなってしまいますので、その制度設計の背景の把握だとか、説明の文言で強調すべきところを整理されて説明していただかないと、この委員会の審査でも審査の方向が間違ってしまうこともあるのかなということを 1 つ意見として、もう 1 つの意見としてはやはりこの 8,000 円ではその場しのぎにしかないのと、世帯当たりになっておりますので、基本料金については確かに助成になっておるとは思いますが、複数人で構成されている世帯においては、足り苦しいところがあるのかなと、そういった面では引き続き現状の聞き取りから、もろもろのものを精査して、年度内に必要であれば同じような事業が考えられるべきかなというところで意見をして終わります。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。平野委員。

◆平野真理子委員 対象者のところで、もう一回ちょっと教えていただきたいんですけども、対象者は生活保護世帯の 1,950 世帯を見込みになっておられるんですね。先ほど岩永委員さんの質疑の中でちょっと私も確認させていただきたんですけど、この生活保護世帯というのは、基準はどこ、もう一回教えてもらいたい、どこの基準になる、いつ生活保護世帯であるという基準を教えてくださいませんか。

◆勝田鮮二委員長 西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長 生活福祉課西垣です。10 月 1 日時点で生活保護を受給されている方が対象となります。以上でございます。

◆勝田鮮二委員長 平野委員。

◆平野真理子委員 分かりました。10 月 1 日時点の方ということで、それは先ほど入院だとか、施設に入られているという生活保護を受けられるその基準と同じことになると思うんですけども、そうするとやはりたまたまそのときに外れるという方は、またもう 1 回審査して基準に入っていくということがありますよね、生活保護の場合だったら。でも、その方は今回のこの



助成事業には入らないということなんですよ。

◆勝田鮮二委員長 西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長 生活福祉課西垣です。入院の方でも、実は短期間の入院でございましたら、生活扶助、食費、光熱水費、こういうのは支給されております。1 か月以上の入院、長期の入院になられた方は対象になるんですけども。ですので、短期間の入院の方ですと生活保護費は在宅基準が適用されておりますので、そういうような方に対しては 8,000 円の助成額、助成金をお渡ししているということになります。長期の入院の方をイメージしていただければとは思っております。以上でございます。

◆平野真理子委員 委員長。

◆勝田鮮二委員長 平野委員。

◆平野真理子委員 分かりました。私もこのまるっきり 1 か月とかいらっしやらない、入院されているのに出るというのは無理があるかもしれませんが、その在宅日も含まれるということであればまた少し広がっていくのかなって思いました。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 1 世帯当たりですから、例えば御夫婦、あんまり大きい人数の保護世帯は少ないかもしれないんですけど、御夫婦、高齢者 2 人世帯で、お 1 人は入院しておられるけど、お 1 人は家に普通に生活していらっしゃるってなった場合は出るわけですよ。

◆勝田鮮二委員長 西垣課長。

○西垣隆司生活福祉課長 生活福祉課西垣です。もう 1 人の方に在宅基準が適用されておりますので、助成額のほうはお渡しするということになります。以上でございます。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。それでは以上で質疑を終了します。討論はございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 討論なしと認め討論を終結します。これより議案第 128 号令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分を採決します。本案に対し賛成の方は挙手をお願いします。

（賛成者挙手）

◆勝田鮮二委員長 挙手全員と認め本案は原案のとおり可決すべきものと決定しました。

## 請願

### 令和 7 年請願第 2 号 加齢性難聴者の補聴器購入に係る公的助成制度創設についての請願書 （質疑・討論・採決）

◆勝田鮮二委員長 それでは続いて請願審査に入ります。令和 7 年請願第 2 号加齢性難聴者の補聴器購入に係る公的助成制度創設についての請願書について、委員の皆様から質疑、御意見はございますか。平野委員。

◆平野真理子委員 ちょっと分かれば教えていただきたいことがあります、長寿社会課さんのほうに。加齢性難聴者っていう場合、その加齢性っていうところには年齢の制限とか、何か年齢

について決まり事があるでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 松本次長。

○松本 縁次長兼長寿社会課長 長寿社会課松本です。加齢性難聴ということの定義を、すみません。存じておりませんが、加齢に伴って状態がよくなるという症状があつて、その難聴、加齢性難聴という言葉で言われてると思いますが、40 歳から始まるとか、30 歳から始まるとかっていったようなことで、啓発をさせていただいておりますので、お年寄りっていいですか、高齢者の方に限ったという病名ではなくて、年齢を重ねるごとに聞こえの状態がよくなっていくという症状を持って加齢性難聴というふうに整理しているのではないかなというふうに、すみません、そういうふうに理解しているところです。以上です。

◆勝田鮮二委員長 平野委員。

◆平野真理子委員 ちょっとすみません。ここでは質疑っていいですか、あれですよ、執行部さんにお聞きすることになるので、あと、いろんな委員のほうにお聞きしたいときには委員間討議をお願いするという動議出さないといけませんよね。

◆勝田鮮二委員長 はい。

◆平野真理子委員 そうですか。もう動議出させてもらってもいいでしょうか。何か早いかな。

◆勝田鮮二委員長 ちょっと、

◆平野真理子委員 もうちょっと、はい。

◆勝田鮮二委員長 そのほか意見があるかも分かりませんので。そのほか。はい、西尾委員。

◆西尾彰仁委員 ちょっと前に資料をいただいとるんですけども、県内で 8 市町が 65 歳以上の高齢者の方に大方 4 万円を上限にということを出されていますし、2 町に関しては、あれですね、これ日野町と日吉津村ですか、40 歳以上というようなことで、加齢性難聴ということで出されているんですけど、実際どれくらいこの市町村は年間使われとったり、どのくらい補助金が出てるかっていうこと、もし分かれば教えていただけないでしょうか。大まかなところでいいです、全部でなくても、大きな市とか、はい。すみません。

◆勝田鮮二委員長 松本次長。

○松本 縁次長兼長寿社会課長 長寿社会課松本です。すみません。ちょっと手元に資料がございませんので、ちょっと調べさせていただきたいんですが、どうしても米子市さんとか、鳥取市が制度がないもので、そういった町とかの単位になります。ちょっと分かるかどうか調べてみます。すみません。

◆勝田鮮二委員長 西尾委員。

◆西尾彰仁委員 私は、この請願にはちょっと反対の立場でございます。様々な難聴の症状だったり、今も支援の事業もある中で、加齢性難聴ということで、そこだけに絞って実際どれだけの数の人が本当にこの支援を必要とされていたり、支援を受けたいなと思っておられるのか、補助金がありきではなくて、やっぱりしっかりとしたデータを基に制度設計を図って、検討していくべきではないかなと思っておるところでございます。前にもお話ししましたが、補助金があれば買ってというようなことも、20 万、30 万、高いのは 100 万ぐらいするものもあるようですんで、やっぱりこの補聴器についてもいろいろなパターンがありますし、4 万円というのは

どういう根拠で今まで出ておるのかっていうのが、ちょっと僕も分からんのですけれども、しっかりと需要というか、この補聴器も前にも言われましたけども、しっかりとトレーニングする期間があるんで、そういう覚悟の上でトレーニングをして、それをつけてよくなるということをしつかりそこら辺のソフトができてから初めてこういう、ソフトができて、しかも欲しい方がこれだけアンケートっていいですか、調査であるから必要だというような根拠をつくってからでいいのではないかと感じるところで、私は現段階では反対です。以上です。

◆勝田鮮二委員長 まだ、討論に入ってませんけど。

◆西尾彰仁委員 ごめんなさい。意見です。

◆勝田鮮二委員長 じゃあ、意見ということでございます。そのほかございますか。岡田信俊委員。

◆岡田信俊委員 はい。私もちょっと西尾委員の考え方に似ておるんですけども、いわゆる加齢性難聴っていうのは、私、専門じゃないですけども、その症状によっていろいろあるわけで、パチッと加齢性難聴イコール A 型補聴器っていうような、そういうことじゃないと思うわけで、もう少し、どういう症状の方々がどれくらいおられて、それで、いわゆる市長答弁にもこの前、岩永さんの一般質問にあったですけども、医療機関でいろいろ診ていただくとかってなことで、現状把握っていうことが最初だと思うんです。

だから、ちょっといきなりというか、文面審査っていうことでいいにしても、2026 年の予算編成についてもっていうようなことが触れてあるんですけども、ちょっとこれ早過ぎるんじゃないだろうか、現状把握してどういう症状の方がどれくらいおられて、それに対してはどういう補聴器が必要であって、それが幾らするから補助金が幾らでというような段取りになるんじゃないかと思います。いきなり今から文面で 2026 年の予算編成に云々かんぬんというのはちょっと採択ということにはできんというふうに思っております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 意見でいいですか。

◆岡田信俊委員 意見で。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。松本次長。

○松本 縁次長兼長寿社会課長 長寿社会課松本です。すみません。県内のちょっと自治体の分ではないんですけども、今回、他都市の中核市を対象に調査したところの実績でいきますと、それぞれ制度の内容が異なっておりますので、対象者ですとか、どういった補聴器本体を補助するとか、そういったいろいろ制度が違うんですけども、その結果で言いますと、もう回答いただいている自治体のその件数を調べて平均ですと 155 件というような数字が出ますけれども、これはもう年によって多い少ないがあります。

ちょっと具体的に申しますと、旭川市が 39 件ですとか、福山市になると 361 件とか、そういったところで件数が違えば決算額も違うというような形でいろいろ自治体によって制度を変えておられると思いますので、決算のほうはちょっとほかの補助以外の数字が入っている可能性もありますけども、そういった現状でございます。すみません。以上です。

◆勝田鮮二委員長 西尾委員。

◆西尾彰仁委員 やっぱさっきも言われたように旭川市 39 件とかね、福山市で 361 件とか、そ

れぞれ市っていいですか、その自治体によって実態をしっかり把握した上で制度設計をつくるべきだと私は思います。ただ単に補助制度をつくって補助金があればいいというものではなくて、今、調査の状況を言われたんですけど、それぞれ各自治体で制度の内容は異なっている、当然だと思います。単市とか、単独費でやる。やっぱり市としてもしっかりと調査をしてほんとで必要であれば金額とか、年齢とか、いろんなことを、制度設計を今後検討していくべきだと思います。意見です。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。平野委員。

◆平野真理子委員 今も御意見が出ていますように、実態把握するっていうことが必要だなんていうふうに出ています。私は前回のときにもお話ししましたが、この検診とまでいかなかったも、今回 10 月 5 日の福祉フォーラムで検診ではなくて検査ですかね、したりとか、また、相談場所を設けられるとか、一步、この今までと違うところをチェックシートだけではなく、具体的にやってみられるということもありましたので、できれば今回 10 月 5 日の模様を受けて、もう少し具体的にどうなのかっていうことを検討させてもらえたらいいなというふうに考えまして、継審をさせてもらえたらなっていうふうに考えます。以上です。

◆勝田鮮二委員長 ただいま継続審査を求める意見がございました。まず、継続審査についてお諮りしたいと思います。本請願を継続審査とすることについて賛成される方は挙手をお願いします。

（賛成者挙手）

◆勝田鮮二委員長 挙手多数ということで、よって本請願は継続審査となりました。それではこれで請願審査を終わります。以上でよろしいでしょうか。そのほか何かありますか。それではこれで福祉部を終了します。福祉部の皆さんは退席ください。健康こども部のほうを昼からということにしていますので、これで、暫時休憩で午後は 1 時からということですのでよろしくお願いします。

午後 11 時 30 分 休憩

午後 12 時 58 分 再開

#### 【健康こども部】

◆勝田鮮二委員長 少し時間早いですが、皆さんお集まりですので、それでは引き続き健康こども部に入ります。議案審査に入ります前に、竹内健康こども部長より挨拶をいただきたいと思います。竹内部長。

○竹内一敏健康こども部長 健康こども部長竹内です。よろしくお願いします。本日は先日 9 月 8 日に御説明をさせていただきました鳥取市一般会計補正予算（第 2 号）の御審議をよろしくお願いいたします。それから追加提案しております健康こども部に係る議案が 1 件ございます。議案第 128 号令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算（第 3 号）の内容としましては、児童扶養手当受給世帯への光熱費の一部助成を行うための経費として、1,143 万 2,000 円の増額補正を提案しておりますので、御審議をお願いいたします。また、その他の報告が 1 件ありまして、休

園中の私立保育園、散岐保育園、さじ保育園の令和 8 年度における対応について御報告させていただきます。詳細につきましては担当課長が説明いたしますので、よろしくお願いいたします。以上です。

◆勝田鮮二委員長 それでは審査に先立ちまして申し上げます。質疑及び説明、答弁は簡潔にさせていただきますよう、執行部及び委員の皆様をお願いいたします。

**議案第 100 号令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算（第 2 号）のうち所管に属する部分（質疑・討論・採決）**

◆勝田鮮二委員長 それでは議案審査に入ります。説明については前回の委員会で既にいただいております。それでは議案第 100 号令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分についての質疑を行います。本案について委員の皆様から質疑はございますか。岡田実委員。

◆岡田 実委員 岡田でございます。事業別概要書の 24 ページの上段の肝臓がん・肝炎対策事業費についてであります。これ説明の中で、令和 6 年の 4 月からだと思んですが、この医療費の助成の条件が緩和されてこういった対策事業を行ったというふうになんて聞いてしまったんですが、そういう緩和されたんですけど、これは国のほうの制度で緩和されたものなんでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 雁長課長。

○雁長悦子保健医療課長 保健医療課雁長です。この事業につきましては、国のほうの制度で、緩和といいますか、これまでは年に 3 回、令和 6 年 4 月前、改正前は過去 12 か月以内に高額療養費の基準額を超える月が 3 月以上の方が対象というふうになっておりましたが、4 月以降は過去 24 か月以内に高額療養費の基準額を超える月が 2 月以上ということで緩和されております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 岡田実委員。

◆岡田 実委員 ありがとうございます。この事業の財源なんですけども、一般財源のほうから支出しているわけなんですけど、ちょっと私の勉強不足があつてはならないとは思いますが、これはやはり一般財源で、国の制度ではありながらも一般財源でこの事業を行ってきたものなのでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 雁長課長。

○雁長悦子保健医療課長 保健医療課雁長です。この事業につきましては県からの委託事業になっておりますので、ですので、県から中核市負担金として全額交付をされます。このたび計上した補正予算につきましては、翌年度の精算時に交付されるということになっております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 同じく 24 ページ下段です。5 類になったので購入事業者の、今までも 3 割だったけど、今回も 3 割で自己負担 4,500 円、非課税世帯は 1,500 円、生活保護の方は無料ということで実施をしていくということが質疑の中で分かりました。これは今後 10 月からだったじゃ

ないかなと思うんですけど、どのように市民に知らせていくんでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 雁長課長。

○雁長悦子保健医療課長 保健医療課雁長です。コロナの予防接種につきましては10月1日から接種開始というふうになっておりますので、今月中に対象者の方に接種券をお送りする予定としております。以上です。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 すみません。もう9月19日なんですが、これから大体対象者の人は何人おられて、いつ発送予定というようなことがもう分かれば教えてください。

◆勝田鮮二委員長 雁長課長。

○雁長悦子保健医療課長 保健医療課雁長です。対象者につきましては、高齢者の方が5万7,000弱になります。順次今、作業を進めているところでして、予定としましては9月の後半ですね、26、27、28くらいに郵便局のほうから発送ができればということで、今、作業を進めているところです。以上です。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 よろしくをお願いします。ただ、今までの2倍の負担になるっていうことで、今までは34%接種率だったじゃないかと思うんですけど、予算も30%に下げてっていうことで、でも、結構コロナも流行っておりますので、接種率が低くなるんじゃないかなっていうことで危惧しますが、速やかな対応をよろしくお願いいたします。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。以上で質疑を終了します。討論はございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 はい、討論なしと認め討論を終結します。これより議案第100号令和7年度鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分を採用します。本案に対し賛成の方は挙手をお願いします。

（賛成者挙手）

◆勝田鮮二委員長 はい。挙手全員と認め本案は原案のとおり可決すべきものと決定しました。

#### 追加提案

議案第128号令和7年度鳥取市一般会計補正予算（第3号）のうち所管に属する部分（説明・質疑・討論・採決）

◆勝田鮮二委員長 それでは続いて追加提案分に入ります。議案第128号令和7年度鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分について執行部の説明をお願いします。

◆勝田鮮二委員長 小野澤局長。

○小野澤裕子こども家庭局長兼こども未来課長 こども未来課小野澤です。議案第128号令和7年度鳥取市一般会計補正予算（第3号）所管に属する部分について御説明させていただきます。こども未来課です。事業別概要、追加分の8ページを御覧ください。低所得者等への光熱費助成事業費（児童扶養手当受給世帯分）です。依然としてエネルギー価格や物価高騰が継続しており、低所得者世帯の家計への影響が大きいと見込まれることから、経済的支援を県の事業に

呼応して実施するものです。対象者として、こども未来課では児童扶養手当受給世帯分を計上しております。令和 7 年 10 月 1 日時点での児童扶養手当受給者として、生活保護受給世帯を除く 1,382 世帯分、助成経費として県が基準として示している 1 世帯当たり 8,000 円を支給いたします。扶助費として 1,105 万 6,000 円、事務経費の封筒印刷代、郵送料、振込手数料として 37 万 6,000 円、合計 1,143 万 2,000 円を計上しております。

なお、財源内訳として扶助費の 2 分の 1 に当たる 552 万 8,000 円が県の家計負担激変緩和事業補助金、扶助費の 2 分の 1 及び事務費 590 万 4,000 円が一般財源としております。なお、児童扶養手当受給世帯への支給としておりますので、申請は不要としており、議決後 10 月末をめどに支払いできるよう準備を進めて支給する予定としております。以上でございます。

◆勝田鮮二委員長 説明いただきました。それでは議案第 128 号令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分についての質疑を行います。本案について委員の皆様から質疑はございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 なしということでございます。質疑なしと認め質疑を終結します。討論はございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 討論なしと認め討論を終結します。これより議案第 128 号令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分を採決します。本案に対し賛成の方は挙手をお願いします。

（賛成者挙手）

◆勝田鮮二委員長 挙手全員と認め本案は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

## 陳情

### 令和 7 年陳情第 11 号 保育士配置基準の引上げの早期完全実施とさらなる改善を求める意見書提出を求める陳情（質疑・討論・採決）

◆勝田鮮二委員長 続きまして陳情審査に入ります。令和 7 年陳情第 11 号保育士配置基準の引上げの早期完全実施とさらなる改善を求める意見書提出を求める陳情について委員の皆様から質疑、意見等はございますか。濱田課長。

○濱田寿之幼児保育課長 幼児保育課濱田です。前回 9 月 8 日の福祉保健委員会において、令和 7 年陳情第 11 号に関する岡田委員さんからの本市における ICT の導入状況の御質問に対しまして、私のほうがお答えしました内容に誤りがございましたので、訂正をさせていただきたいと思います。ICT の導入状況として、今 9 月定例会にて補正予算を計上している浜坂保育園が導入された場合、全園で導入済みとなるというようなお答えをさせていただいておりましたが、実際には浜坂保育園以外にも未導入の園が 1 園ございます。今後、浜坂保育園が導入された場合、本市の公私立の保育所、認定こども園、小規模保育事業所 67 園中 66 園が導入済みとなり、導入率は 98.5%となります。訂正しておわび申し上げます。

◆勝田鮮二委員長 訂正ということでよろしく申し上げます。それでは陳情審査に入ります。委

員の皆様から質疑、意見等はございますか。岡田実委員。

◆岡田 実委員 はい。濱田課長様にはありがとうございました。3要件のうちの1つのICTの導入のことでした。意見になりますけども、これ私の意見なんですが、保育士配置基準の引上げの完全実施とさらなる改善を求める意見というところの理由の中に、要件が厳しくて対象となる施設が限定されているというふうなことから、  
そういうふうなことから、すみません。特に1歳児の加算要件をなくした上でというふうに書いてあるわけなんですけども、この1歳児の加算要件の部分の、先ほどの3要件を見ますと、ICTのシステムを導入しているところは先ほどの濱田課長のほうからの内容では98.5%がこの本市の中ではもう導入済みというところであります。

さらには、ほかの2つの要件なんですけども、保育所の運営費加算っていうところのこの加算の処遇改善の1と2と3の全てを取得しなければならないというものと、もう1つは平均経験年数ですか、平均勤続年数を10年以上満たしていることというふうなことがあるんですが、これは保育の質に関わることでございますので、ここのこの要件だけはどうしても外されない要件だというふうに考えたときに、外したくない、外されたくない要件プラスICTという環境の改善っていうところは、もう既に98.5%導入済みということになりますので、このこのたびの陳情というものについては既に実施済み、環境済み、それから要件を外す必要はないというところがありますので、反対といえますか、そのような意見を申し上げさせていただきたいと思います。

あと、4歳・5歳児についてでございますけども、これについては期限の定めのない経過措置っていうところがあって、そういうところがあるといえはあるんですけども、ひとまず経過措置であったとしても、これも既に保育士のその加算についてはもう既に現場のほうでは行われていることもありますので、それも併せてなんですけども、もう実施済みというところもありますので、今回の陳情については反対というふうな意見を申し上げさせていただきます。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 濱田課長にちょっと聞きます。1歳児の加算要件、さっき岡田委員が説明されたように3つあるんですけど、どれが難しくってなかなか加算が取れていないというようなことがあるのかなっていうふうに思われるでしょうか。あるいは実態をつかんでおられて、どうでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 濱田課長。

○濱田寿之幼児保育課長 幼児保育課濱田です。今現在、申請されているところは要件を満たされている前提で申請されてきておりますので、それ以外、申請されてないところというのは実際に配置ができていなくて申請されていないのか、この加算の要件、3要件のいずれかを満たしていなくて申請されてないのかというのは今現在、把握しておりません。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 前回の委員会の際に課長に聞いて分かったことは、まず、1歳児を保育している42園中35園が今、この申請をしておられて、9月頃に対象になるかどうかははっきりするということでした。それで42園中35園が申請しているということですから、だけど、全部



が申請できていないということまず確認したいと思います。それから、以前には保育士1人に対して4.5人の子供、つまりこの基準よりもっと厳しいというか、子供にとっては優しい基準が実施されたことがあります、ですよね。違いますか。保育士、1歳児で保育士1人に対して4.5人という、ちょっとこれを確認させてください。

◆勝田鮮二委員長 濱田課長。

○濱田寿之幼児保育課長 はい。1歳児の4.5対1の配置をした場合に、補助事業がございまして、これは県のほうの補助事業で、市のほうも幾らか負担して実施している事業でございます。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 そのときは、ほぼ補助制度に手挙げをしてそういう保育体制を組んでいたというところでいいでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 濱田課長。

○濱田寿之幼児保育課長 はい。こちらの補助制度のほうの適用があった事業所というのは、月によって適用の状況が変わりますけども、大半の施設においてこの補助制度の適用を受けて実施されていたという実績がございます。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 今がどうかは分かりませんが、以前にそういう保育士1人に対して4.5人の子供という補助制度があって、ほぼ手挙げをして満たしていたという状態もあったということですが。だけど、今、42園中35園しか申請を、手挙げをしていないというのは、加算基準のほうに厳しいということではないのかなというふうに私は理解します。

3歳児の保育で前回課長に聞いたときに、旧基準の施設が1つあります。それから4歳・5歳児で旧基準の施設が1つある、それぞれ1つあるということでした。本当なら基準改定されたので4・5歳児だったら25人に対し保育士1人、3歳児だったら15人に対し保育士1人という基準に合わせてどこの保育施設でも保育をしないとイケないわけですけど、従前のとおりでいいと、期限の定めのない経過措置、つまり旧基準でオーケーというそういう経過措置が盛り込まれたために、足りないところは手挙げしなくても、基準を満たしてなくてもいいということになったわけです。

そのことが鳥取市の実態の中で分かったじゃないかと思います。ですから、現場の実態見ていただいて配置基準の引上げだとか、経過措置とかいうことじゃなくって、完全実施を基準どおりに求めていくっていう意見書を上げるということが必要じゃないかと思います。

◆勝田鮮二委員長 意見でいいですね。

◆岩永安子委員 はい。

◆勝田鮮二委員長 意見で。そのほかございますか。岡田信俊委員。

◆岡田信俊委員 先ほどの岡田実委員の御意見にもありましたけども、国としても保育の質の向上を上げるためにも、保育士の配置の改善っていうのは十分図っているというふうに理解しておりまして、なおかつ、令和8年度の概算要求ではあるんですけども、2兆5,074億円ということで、いわゆるプラスの概算要求にもなっておるわけですし、それから、いわゆる辞めていくとか、縮小するというでなくて、まだまだ予算も増やして何とかしていこうとい

うことが見えるわけで、私としてはこの意見書の提出は反対ということの意見です。

◆勝田鮮二委員長 意見ということで。そのほかございますか。それでは質疑を終結します。討論はございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 予算は増やしてくれるかもしれないですけど、現実こういう基準をつくっている、基準があるがために経過措置で従前どおりでいいとか、1 歳児は基準改定ではなくて加算措置になっているとかいう、こういう制度そのものが、やっぱり保育士をきちんと増やしていくということにつながっていないということが、鳥取市の今の実態の中でも出てきているというふうに思いますので、配置基準の引上げの完全実施、さらなる改善を求める意見書ってというのは上げていく必要があると思いますので私は賛成します。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。平野委員。

◆平野真理子委員 先ほど岡田委員のほうからも言われたように、国として予算を増額したりとか、既に国として教育の質の向上とか、財源確保に努め、適切な措置をしていくっていう方向で進めている中で、先ほども質疑の中で鳥取市の現状とか報告がありましたけれども、これで止まるとかいうのではなく、その方向でまだ進む余地もありますし、もう少しこの今の現状、様子を見ながら進めていくことも大事ではないかなっていうふうに思いますので、今のところのところをさらに早期完全実施、また、さらなる改善と言ってみても現状をしっかりと踏まえながら進めていくことも大事ではないかなと思いますので、私は今回の陳情については反対の立場で討論させていただきます。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。以上で討論を終結します。これより令和 7 年陳情第 11 号保育士配置基準の引上げの早期完全実施とさらなる改善を求める意見書提出を求める陳情を採決します。本陳情に賛成の方は挙手をお願いします。

（賛成者挙手）

◆勝田鮮二委員長 挙手は少数ということで。失礼しました。挙手少数です。よって本陳情は不採択とすることに決定しました。それでは不採択理由の確認をさせていただきます。委員の皆様御意見等をお願いします。岡田信俊委員。

◆岡田信俊委員 いわゆる国としても保育の質の向上のためにも保育所の配置の改善を図っていくことを重要と考えて予算措置等も十分に、予算要求にしても増やしておるといようなことを盛り込んでいただけたらと思うんですけど、先ほどの意見とまた別ですけど。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。そうしましたら、ただいま意見も出ましたが、正副委員長でまとめさせていただき、この委員会の最後に確認するということですのでよろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 じゃあ、そのようにさせていただきます。

令和 7 年陳情第 12 号 保育所に対する社会福祉施設職員等退職手当共済制度の公費助成の継続を求める意見書の提出を求める陳情（質疑・討論・採決）

◆勝田鮮二委員長 続いて令和 7 年陳情第 12 号保育所に対する社会福祉施設職員等退職手当共

済制度の公費助成の継続を求める意見書の提出を求める陳情について、委員の皆様から質疑、意見等はございますか。岩永委員。

- ◆**岩永安子委員** これも前回、濱田課長に答えていただいて、社会福祉法人設立の保育所に対して退職手当を国・県・法人が3分の1ずつ負担して積み立てて退職時にという制度だということでした。令和8年度までに改めて結論を出すということになっているので、そういうことにならないように、ぜひ今の状況が続けてほしいということで、この陳情が出ているんだということを理解させていただきました。

介護施設や障がい者施設というのは、社会福祉法人の割合が減ってきたのを契機に平成18年とか、28年、国、県もかな、の補助の対象から外していったということもお聞きしました。保育施設、保育士さんの給与というのは、本当に一般と比べて安いというふうに言われていますし、本当に安いというふうに思います。公立の保育施設がだんだん少なくなる中で、社会福祉法人施設で働いておられる保育士さんたちが働き続けることができるということの保障にやっぱり退職金制度というのはなるもんじゃないかというふうに思います。

なので、国・県・法人3分の1ずつ積み立てておくという制度ですので、もっともな制度で、引き続きこういうものを維持していくということが必要じゃないかというふうに思います。意見です。

- ◆**勝田鮮二委員長** はい、意見で。了解しました。そのほか。はい、岡田実委員。

- ◆**岡田 実委員** はい。この退職金に対するとおの公費助成に関しては、先ほど来から話もあったんですが、この保育に関わる社会福祉施設等以外にも、先ほどもあったと思うんですけども、介護事業ということで介護保険施設については平成18年度にこの公費の助成が廃止になっていますと。さらには障がい者支援施設につきましては、これは平成28年にやはりこのところの退職金に関わる公費助成が廃止されておられます。これ、濱田課長のほうからも前回説明がございましたけども、イコールフィッティングという観点というふうにあるんですけども、これは民間の対等な競争条件の確保をするために、既に今ある3つのうちの2つ、介護と障がいについては公費助成が今なくなってきていると。あと、残されたところ、社会福祉の施設であります保育所、保育についてはどうかという議論に今なっているところであって、さらには令和8年度、ですから来年ですね、来年度までにこの社会福祉施設に関するところをどうするのかということで、今、討論されているようなところなんですけども、こういったことを考えてみるときに、やはり保育についてもこの社会の中では非常に重要なカテゴリーでありますし、介護にしてもやっぱり今、喫緊の課題であると思います。障がい者についてもそうです。

だから、全てにおいて、重要な内容ではあるわけなんですけども、このあと残されている社会福祉の部分だけを議論するという話にはならないのじゃないだろうかと。そうすると退職金の検討についてまた違うステージで、このほかの介護とか、障がいも含めた協議に入るのなら分かるんですけども、この1点だけで制度を残すというふうな進め方というのはちょっと整合性が合わないのじゃないだろうかと。というところから、私の意見とすれば、この今回についてはこれもちょっと反対のほうの意見として申し上げさせていただきます。

- ◆**勝田鮮二委員長** そのほか、岩永委員。

◆**岩永安子委員** 今、岡田委員が介護施設や障がい者施設は退職積立制度から外されたというのは、社会福祉法人の介護施設、社会福祉法人の障がい者施設が全体の中で占める割合が減ってきたと、NPOとか、株式会社とか、そういうほかのその他の施設が増えてきたということがあって公費助成をやめた。もちろんこの社会福祉法人の介護施設、障がい者施設であれば、この制度に入ることはできるけど、公費負担はないよ、だけど、退職金積立制度のこの仕組みに入ることはできるよという制度なんです。

それで、令和8年までに結論を得ることになっているというふうになっていますが、何回か先延ばしになってきたのは、社会福祉法人の保育施設が多いから、ほかのこれまでの介護施設や障がい者施設のように割合が少なくなっている状況ではないという現状があって、結論が先延ばしになっているということです。これだけを議論するというのはおかしいっていう岡田委員の意見はちょっと違うじゃないかなと私は。別に求めていませんから、求めていません。意見を言っているんです。と思います。

◆**勝田鮮二委員長** そのほかございますか。西尾委員。

◆**西尾彰仁委員** 私は、これは公費助成の在り方じゃないかなと思っているんです。私立の保育園とかもあるし、そういう扱ったりするところもあるんでしょうけども、公費助成を本当に必要とするのかと、ほかの経営の主体との整合性みたいなのはどうなのかという点も考えながらしていけないといけないなと思って、それで、検討加えて令和8年度までに改めて結論を得るという形になっているんだと思いますけれども、私は、これはちょっと民間なんかの参入を促していったり、本当に公費で出すべきものなのかという観点になったら、ちょっと賛成しかなるところでございます。以上です。意見です。

◆**勝田鮮二委員長** そのほかございますか。それでは質疑を終結します。討論はございますか。岩永委員。

◆**岩永安子委員** もともと鳥取市の保育もみんな公立保育園で、公的に責任を持つというものだったと思います。民間がどうのこうのっていうんじゃないですけど、そういう中で、社会福祉法人設立の保育施設に対してやっぱり質やらそれから働きやすさということを保障するためにやっぱり国や県が公的にバックアップしましょうという制度じゃないかと思いますので、ぜひ存続をさせるという立場で意見書を上げるべきでないかというふうに思います。

◆**勝田鮮二委員長** そのほかございますか。西尾委員。

◆**西尾彰仁委員** 私はちょっと反対の立場で、国としてもしっかりとこれは検討していくということをおられますし、そもそも民間にできることは民間に任せるといほうが私は民間活力の向上につながると考えております。ですから、この社会福祉施設職員とあるんですが、ちょっと中途半端な立場の職員なんですけども、そういうところだけに公費を助成するというんでなくて、もっとするんなら、民間の保育園のそういう人の処遇改善なり、退職金のことを考えてあげたほうがいいのではないかなと思ったりもするので、何でもこのところに公費助成を、国が3分の1、県3分の1、法人3分の1ということですけども、ずっとし続ける必要があるのかどうかという点で、今々、この陳情書には賛同できないということでございます。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。平野委員。

◆平野真理子委員 私は今回の陳情については反対の立場で討論させていただきます。令和7年度の保育関係予算において、社会福祉施設職員等退職手当共済事業について、保育所等に対する公費助成を一旦継続しつつ、公費助成の在り方について他の経営主体のイコールフィッティングの観点及び子ども・子育て支援加速化プランに基づく、保育人材確保の状況等踏まえて、さらに検討を加えて、意見でも出ていました令和8年度までに結論を得るというふうに明記されているということもありまして、このことについては、国・県それから事業所ということになりますので、現場において適切に判断を今後されるということになると思いますので、本市としてはそこを見守っていくという必要性が大じゃないかなというふうに思いますので、陳情に対しては反対ということで討論させていただきます。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。以上で討論を終結します。これより令和7年陳情第12号保育所等に対する社会福祉施設職員等退職手当共済制度の公費助成の継続を求める意見書の提出を求める陳情を採決します。本陳情に賛成の方は挙手をお願いします。

（賛成者挙手）

◆勝田鮮二委員長 挙手少数です。よって、本陳情は不採択とすることに決定しました。そうしましたら、不採択理由を確認したいと思います。委員の皆様から御意見ををお願いします。岡田信俊委員。

◆岡田信俊委員 委員長、副委員長にお任せします。

◆勝田鮮二委員長 そうしましたら、ただいま正副委員長という意見が出ましたので、ただいまの御意見等、正副委員長でまとめさせていただき、この委員会の最後に確認するというところでよろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 はい。以上で陳情審査を終了します。

#### その他の報告

##### 休園中の市立保育園（散岐保育園、さじ保育園）の令和8年度における対応について

◆勝田鮮二委員長 その他の項です。引き続きましてその他の報告として休園中の市立保育園（散岐保育園、さじ保育園）の令和8年度における対応について説明をお願いします。濱田課長。

◆濱田寿之幼児保育課長 幼児保育課濱田です。資料のほうはその他の報告説明資料、こちらの3ページを御覧ください。休園中の市立保育園、散岐保育園、さじ保育園の令和8年度における対応についてでございます。令和7年4月1日より休園しております散岐保育園、さじ保育園につきまして、令和8年度に各地区内で入所対象となる児童の保護者に対して園が再開になった場合の入所希望の有無に関する意向調査を実施いたしました。その結果、入所希望者は散岐保育園が4人、さじ保育園が2人であり、令和7年度の休園した際の状況と変わらず、極めて少人数の状況でございました。

このような少人数での園運営におきましては、同年齢又は異年齢においての集団としての活動に制限が生じ、園児の協調性や社会性の育みなど、子供の育ちへの様々な影響が懸念される

ことから、各地区での保護者説明会、地元説明を経て、令和7年度に引き続き令和8年度も休園することといたしました。意向調査の結果につきましては、下の1の（1）が散岐保育園の結果でございます。対象者15人への調査を実施し、回答があった11人のうち、入所希望は4人で行っていました。

次に（2）のさじ保育園につきましては、対象者13人へ調査を実施し、回答があった11人のうち、入所希望は2人という結果で行っていました。なお、入所希望者の歳児別人数につきましては、対象者自体があまりにも少数であるため、個人の特定につながる恐れがあることから控えさせていただいております。

最後に2の令和9年度以降の対応についてでございます。次の令和9年度の園の在り方につきましては、令和8年度の在り方を検討した今回と同様に、今後の地域における出生数や意向調査の結果などを踏まえて検討していくこととしております。以上でございます。

◆勝田鮮二委員長 説明いただきました。委員の皆様から質疑等ございますか。西尾委員。

◆西尾彰仁委員 ありがとうございます。さじも13人で2人の希望ということで、これは来年も続いて何年も、こう3年、4年とか続いたらせつかく、いい施設なんです。さじは結構新しい施設で、多分財源としては過疎債が充当されていると思いますので、その辺ありますが、目的外利用も今、国で認めていただけるようなことになっておりますので、これからぐっと増えてここに10人以上が、散岐もさじもちょっとあんまり集団で外国人の方が来られることであればあるんかもしれないけど、それ以上は考えられないので、同時進行でちょっと利活用を検討を始めてみられたらどうかなと思いますけども、その辺どう考えておられますでしょう。将来なんですけど。

◆勝田鮮二委員長 濱田課長。

○濱田寿之幼児保育課長 その廃園による利活用というようにお話しかったかと思います。実際に地元説明の際にも存続再開を希望される意見がある一方で、そういった廃園による利活用を考えていったほうがいいんじゃないかというような御意見もございました。ただ、今現在、市のほうで考えさせていただいているのは、まずはちょっと来年度また同じように状況を見させていただいて、また、その対応につきましては、その時点で考えさせていただきたいと考えております。

休園中の利活用も可能でして、そちらのほうは、これも保護者説明会のほうで御意見いただいたんですが、地域の親子が集まれる場所としての利活用ができないだろうかというような御意見をいただきまして、実は9月の28日日曜日に、さじ保育園を会場にしまして、子育て広場inさじと題した親子が集える催しを支所と連携して開催することとしております。

また、散岐保育園のほうに関しましても、公民館事業等での利活用を今、進めているところでございます。そういったところは対応していきたいと考えております。以上でございます。

◆勝田鮮二委員長 西尾委員。

◆西尾彰仁委員 休園中でもせつかくいい施設、さじはいい施設というか、新しいし、散岐は地区公民館とかすぐ近くにあって、みんなが寄りやすいところにあるわけですので、そういう利活用を推進していただきたいということと、廃園というのはなかなか過疎債の返済中はできな

いと思うので、用途変更を3年、5年、これ入らんでということになると、そういうのも用途変更を国のほうに申請して、そういう地域の望むような施設利用も考えていただけたらと思います。これは意見です。以上です。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。岩永委員。

◆岩永安子委員 この調査はどういうふうにして、まず調査をされたんでしょうか。今、あっちこっちの保育園に行っとられたり、それから家におられるとか、どんなふうにして調査されたのか教えてください。

◆勝田鮮二委員長 濱田課長。

○濱田寿之幼児保育課長 幼児保育課濱田です。この調査の対象者は、現在、入所の有無や入所先の施設等は問わずに、各地区における来年度保育所のほうに入所対象となる年齢の児童の保護者に対して調査のほう実施したものでございます。

◆勝田鮮二委員長 岩永委員。

◆岩永安子委員 郵送で返答をもらうという格好ですか。

◆勝田鮮二委員長 濱田課長。

○濱田寿之幼児保育課長 郵送で調査票のほうを発送いたしまして、郵送にて回答のほうを返していただいたものでございます。

◆勝田鮮二委員長 よろしいですか。岩永委員。

◆岩永安子委員 回答率が100%でなくて、73%とかってちょっと、1人答えられなかったらちょっと下がちゃたりなんかするかもしれんですけど、何かこれちょっと心配なんですけど、声が戻ってこないというのがね、仕方がないんですかね。

◆勝田鮮二委員長 濱田課長。

○濱田寿之幼児保育課長 はい。あくまで任意の調査として実施させていただいておりますので、ちょっと催促までは控えさせていただいたというところでございます。

◆勝田鮮二委員長 よろしいですか。平野委員。

◆平野真理子委員 はい。7年度それから今後のことも含めて、その希望されてない人というのは、例えば7年度でしたらどのようにされていたのか状況分かりますでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 濱田課長。

○濱田寿之幼児保育課長 幼児保育課濱田です。まず、散岐保育園に入所されていた児童のほうに関しましては、大半が河原のあゆっこ園のほうに移られましたし、さじ保育園の方に関しましては、もちがせ保育園のほうに大半が移られたというような状況でございます。

◆勝田鮮二委員長 平野委員。

◆平野真理子委員 分かりました。行き場がなくて困るとかというわけじゃなかった、きちっと近くの同じところに行かれたということですね。そうしますと、たくさんの子供さんたちと一緒にまた過ごして、そういう環境にあるということはよかったなというふうに思いますし、あと、ちょっと先ほども意見出しましたが、細かいことで、もしあれば教えていただければと思うんですけど、保護者説明会、地元説明会を経てと書かれていますけども、何か特徴的な御意見とかあったでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 濱田課長。

○濱田寿之幼児保育課長 幼児保育課濱田です。ちょっと先ほども申し上げましたが、やはり存続再開を望まれるような意見であったり、逆に休園を続けるのではなくて、次の利活用を考えたほうがいいのではないかというような御意見が地元のほうからは出ておりました。それで、保護者のほうからは、やはり休園中の利活用、そういった地区内の親子がつながりを持てるような集える場所としての利活用を考えていただきたいというような御意見をいただいたところでございます。

◆勝田鮮二委員長 平野委員。

◆平野真理子委員 分かりました。ありがとうございます。今後の活用についての要望が多かったということで、希望された方も、もしこれで今回も休園ということになってがつくりというよりは、それはそれで次のこと、一緒にさっき言われたもちがせとか、あゆっこ園さんのほうに行かれるとかということで、困るということではないという状況だったというふうに理解していいでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 濱田課長。

○濱田寿之幼児保育課長 保護者の方からは、そういったことの困りごとというような御意見はなかった状況でございます。

◆勝田鮮二委員長 そのほかございますか。はい、ないようでございます。じゃあ以上でよろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 そのほか何かございますか。では、これで健康こども部を終了します。健康こども部の皆さんは退席ください。お疲れでした。

## その他

### 令和7年度議会報告会・意見交換会について

◆勝田鮮二委員長 それでは、引き続きその他ということで、先ほど少し説明しましたが、令和7年度議会報告会・意見交換会についてに入ります。お手元に配布の資料のとおり、11月10日月曜日に議会報告会・意見交換会が開催されることとなりました。そこで、議会広報広聴委員会より、福祉保健委員会から4名選出していただきたいと依頼がありました。つきましてはこの委員会の中で決めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 では、協議の前に議会広報広聴委員会の委員さんから内容について説明をお願いします。岩永委員をお願いします。

◆岩永安子委員 はい。別紙につけておりますとおり、今年は団体と意見交換会を行いますということで、前期はなかったんですけど、9月末の申込みということで、今回、対話とつながりとどんぐりの森という不登校の親御さんの会だというふうに思いますが、代表者、尾崎さんから意見交換会の申出がありました。テーマはそこに書いてあるとおりです。いらっしゃる参加予定は今のところ6人ですが、福祉保健委員会から4名、文教経済委員会から4名選出をして



いただいて、グループに分かれての討議ということを考えておりますので、ぜひ、福祉保健委員会は岩永と加嶋さん、西尾さん、広報広聴委員がおりますので、それ以外の委員の皆さんから 4 名の選出をお願いしたいと思います。

◆**勝田鮮二委員長** という説明でございました。したがって、広報広聴委員の方を除き、4 名ということで、それに今回、意見交換会に来られる方ですね、どんぐりの森の代表、尾崎さんをはじめ、ほとんどが女性だということで、女性委員の出席もお願いしたいという委員長からの依頼もありましたもので、取りあえず、じゃあ、この場でもう決めさせていただきたいと思います。それでは平野委員、それから岡田信俊委員、岡田実委員、勝田鮮二私ということで 4 名決定させていただきたいと思います。また、改めて通知があるだろうと思いますが、11 月 10 日 10 時～12 時ということで、鳥取市役所ですんで、一応予定を入れないでよろしく願いいたします。

それでは、以上なんですが、先ほど正副委員長に一任ということがございます。少し時間がほしいので暫時休憩しますが、2 時半に再度集まっていいただいて、それまでは休憩という形でよろしく願いいたします。

午後 2 時 5 分 休憩

午後 2 時 28 分 再開

◆**勝田鮮二委員長** それでは再開します。先ほどの陳情の不採択理由の確認でございます。まず、最初に、令和 7 年陳情第 11 号保育士配置基準の引上げの早期改善実施とさらなる改善を求める意見書提出を求める陳情ということで、一応、不採択理由案ですけども、国も保育の質の向上に努めている中で、本市としても現状を把握する必要があるためですが、何かおかしければ随時発言していただければ、これを付け加えたほうがいいなとか。はい、平野委員。

◆**平野真理子委員** 前半のところはいいんですけど、この現状を把握する必要があるために、この改善を求める意見書が違うというのも、ちょっと何か別に、現状を把握する必要があるために反対するもんかいなと。要するに向上を努めておられるので、これを見守るといえるのか、これを注視するといえるのか、何ていう言葉だったか、岡田委員さんのほうで何か言われたかいなとちょっと思ったんですけど。こうって言われたかいね、現状を把握する必要があるためって言いなったかいな。

◆**勝田鮮二委員長** 意見、質疑といいますか、意見ではなくて討論のときに発言された内容を盛り込まないといけないので、意見ではかなり皆さんたくさん議論してもらいましたが、討論のときに発言されている字句を使わせてもらった。はい、岩永委員。

◆**岩永安子委員** 現状を把握する必要があるとは平野委員さん言われなかったと思うんですよ。現状を踏まえながら見ていくと言われて、別に現状を把握しようという意見ではなかったと思うんですね。だから、ちょっとこれは違うんじゃないかなと思います。

◆**勝田鮮二委員長** はい、事務局。

○**福田佳菜議事係主任** 失礼します。事務局福田です。そうですね、平野委員さんのほうからは、

もう少し今の現状、様子を見ながら進めていくことも大事ではないかなというふうに思いますというふうな御発言がありました。

◆勝田鮮二委員長 はい、岡田委員。

◆岡田信俊委員 はい。今、ありがとうございました、福田さん。そうしますと、本市としても現状を把握するということ、現状を見守りというような書き方ではどうでしょうか。すみません。本市としても現状を見守る必要があるために変えてはどうでしょうか。以上です。

◆勝田鮮二委員長 はい、事務局

○福田佳菜議事係主任 失礼します。事務局の福田です。平野委員さんのほうからは岡田委員さんからもおっしゃられたように、国として予算を増額したりとか、既に国として質の向上とか、財源確保に努め、適切な措置をしていくという方向で進めている中で、質疑の中で、鳥取市の現状とか報告がありましたけれども、これで取るということではなく、その方向でまた進む余地もありますし、もう少し今の現状、様子を見ながら進めていくことも大事ではないかなというふうに思いますというふうな御発言がございました。

◆勝田鮮二委員長 西尾委員。

◆西尾彰仁委員 はい。国も保育の質の向上に努めている中で、本市としても現状を見ながら進める必要があるためでいいじゃないですかね。どうでしょう。

◆勝田鮮二委員長 その最後のほう、真ん中から後半ですね、本市としても現状を見ながら進める必要があるため。はい、もう一度最初から言います。国も保育の質の向上に努めている中で、本市としても現状を見ながら進める必要があるため。よろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長 はい。じゃあ、陳情第12号保育所に対する社会福祉施設職員等退職手当共済制度の公費助成の継続を求める意見書の提出を求める陳情でございます。不採択理由としては、上とあれですけども、国としても既に検討を進めており、現場において適切に判断されるべきであると考えするため。平野委員。

◆平野真理子委員 最後の現場において適切に云々はいいかなと思うんですけど、最初の国としても既に検討を進めておりというのは、既に検討を進めてはどの分のことを。皆さんから出たのは8年度はここまでするんだと、それで、その後また検討するんだということはその意味ですかね。既に検討を進めておりというのは、何か進めるとは言っていたけど、既に進めるかどうかは、何だかちょっとまだ私もあんまりこれがそれだよというのは把握してないんですけど、令和8年度に検討するという話は載っていたんですけどね、それがこれのことか。

◆勝田鮮二委員長 はい、事務局。

○福田佳菜議事係主任 失礼します。こちらは西尾委員さんの討論の中で、国としてもしっかりこれは検討していくということをおっしゃられますし、というふうな御発言がありましたので、こういったところを盛り込ませていただいたと。

◆勝田鮮二委員長 西尾委員。

◆西尾彰仁委員 西尾です。既には取っていただいて、国としても検討を進めておりで、既にを取っていただいて。

◆勝田鮮二委員長 はい、平野委員。

◆平野真理子委員 今ちょっと正確に言うと、進めておりという言葉が使われたかいな、すと言っているじゃなかったかいな。書いてありますね、令和8年度までこれで行くけれども、その後のことはそこからまたやりますよって言っているということで、今進めておりますというのが、何か記載されとったかいな、今やりようるってどこがやりようるかいなということはよう見つからなかったですけども。

◆勝田鮮二委員長 はい、事務局。

○福田佳菜議事係主任 失礼します。国としてもしっかりこれは検討していくということを言っておられますし、というふうな御発言でした。

◆勝田鮮二委員長 それではちょっと最初の文章ですけども、国としても検討していくとしており。はい、岡田実委員。

◆岡田 実委員 あと、平野委員さんが、途中、資料を読まれた中で、僕もちょっと同じ資料を持っていて、ここ言葉として入れていたのが、保育所等に対する公費助成の検討というか、そういうこの検討しておりという、どういったものをというところの、討論の中で言われたと思ったんですが。それは討論の中では言ってはなかった内容だったでしょうか。

◆勝田鮮二委員長 はい、事務局。

○福田佳菜議事係主任 失礼します。平野委員さんの討論の中で、令和7年度の保育関係予算において、社会福祉施設職員退職手当共済事業について、保育所等に対する公費助成を一旦継続しつつ、公費助成の在り方について、他の経営主体のイコールフィッティングの観点及び子ども・子育て支援加速化プランに基づく、保育人材確保の状況等踏まえて、さらに検討を加えて令和8年度までに改めて結論を得るというふうに明記されているというふうな御発言がございました。

◆平野真理子委員 現場において、国と県と主体者とが適切に判断されることが前提、鳥取市として、今なんだかんだというのはちょっと難しいじゃないかなという気持ちで言ったんですけど、ちょっと言葉が違いますね。

◆勝田鮮二委員長 はい、西尾委員。

◆西尾彰仁委員 はい。私も、これ、さっき委員長も言われましたけど、国としてもしっかり検討していくとしておりって、現場においてみたいな感じでしたらどうでしょう。進めてじゃなくて、進めては言っていないので、しておりで。

◆勝田鮮二委員長 はい、岡田信俊委員。

◆岡田信俊委員 細かいですけど西尾さん。さっきしっからは抜かされたと思う。

◆西尾彰仁委員 しっからは言いました、僕は。

◆勝田鮮二委員長 はい、事務局。

○福田佳菜議事係主任 はい。西尾委員さんの御発言でしっかというふうな御発言もございました。

◆勝田鮮二委員長 平野委員。

○平野真理子委員 意味としてはしっかだと思うので、言われたのはしっか全然間違いじゃ

ないんですけども、ここで言う、ここにしっかりと入ったほうがいいかどうかについては、何か違和感があるんですよ。しっかりとというのはどんなのみたいな、そういうのはなくても意味が通ったらなるべく言葉少なく。

◆西尾彰仁委員 なるほど、分かりました。

◆勝田鮮二委員長 じゃあ、そうしましたら、もう一度よく聞いてください。国としても検討していくとしており、現場において適切に判断されるべきと考えるためと。よろしいでしょうか。魚崎委員。

◆魚崎 勇委員 西尾さん、後半の、現場において適切に判断されるべきというのはなげやりの感じがしないか。その現場の保育所が判断しなさいよというような言い方に取れそうなんですけど。

◆勝田鮮二委員長 平野委員。

◆平野真理子委員 現場においてというのは、実際、助成制度で決めてお金を出して決めていくところは国・県、あと事業所さんなので、これは現場においてのこの3つは決まっているんですよ。だから、なげやりでというんじゃないくて。

◆勝田鮮二委員長 魚崎委員。

◆魚崎 勇委員 ごめんなさい。投げやりという言い方ちょっとまずかったですけど、現場で、現場という言葉の中に、国と県と保育所というその意味合いが取れるのかなと思って、文章で。ちょっとそれが心配になった。

◆西尾彰仁委員 陳情同じのが出ておりました、確かに。現場においてというのがね。

◆勝田鮮二委員長 そこの現場という二文字を国・県・事業所というか、において適切に判断されるためと。西尾委員。

◆西尾彰仁委員 分かりにくかったら、現場で括弧とかしたらいけんですか。国・県・事業所、括弧いらんか。

◆魚崎 勇委員 市はどこに入ってくるんだ。

◆西尾彰仁委員 そもそも市はない。

◆勝田鮮二委員長 魚崎委員。

◆魚崎 勇委員 この現場の中に市は入ってないんですか。入ってない、本当に。

◆西尾彰仁委員 本当で。

◆岩永安子委員 本当に。

◆西尾彰仁委員 本当に入っていない。市は関係ないだけ、これね。

◆勝田鮮二委員長 魚崎委員。

◆魚崎 勇委員 はい。市もこの制度の中の一つ、くちばしとか入っていない。

◆西尾彰仁委員 ない。ないですね。

◆魚崎 勇委員 なら、大丈夫ですね。

◆西尾彰仁委員 だって、いいんじゃないですか、そのままでいけば。

◆魚崎 勇委員 はい。分かりました。

◆勝田鮮二委員長 はい、岡田信俊委員。

- ◆岡田信俊委員 先ほど委員長が言われた案に賛成です。委員長おっしゃったように、現場を外して、国・県・法人とするほうがいいと思います。
- ◆勝田鮮二委員長 平野委員。
- ◆平野真理子委員 文章的には国・都道府県なんですよ、だけ、私たちは鳥取県のことを言っているけど、国、あれみたら都道府県なんですよ。
- ◆勝田鮮二委員長 西尾委員。
- ◆西尾彰仁委員 平野委員も言ったけど、これ自体が文章にも現場というのが入っているので、ここで分かると思うんです。だから、丁寧に言えば委員長や岡田委員のとおりだけでも、私はこのまま現場でいいのではないかなと思います。
- ◆勝田鮮二委員長 岡田信俊委員。
- ◆岡田信俊委員 長いんですけど、やっぱり国・都道府県・法人ですかいね、等、現場って何というのが聞かれそうな、何かそんなことないですか。以上です。
- ◆勝田鮮二委員長 平野委員。
- ◆平野真理子委員 この陳情を出されている方が、市ではどうにもならんところを言われているので、やっぱりその辺はあんまり深く詳しくしなくてもいいのかなという気もせんでもないです。
- ◆勝田鮮二委員長 西尾委員。
- ◆西尾彰仁委員 はい。私も、請願者のほうも現場というのを使って出されておって、それに呼応する形で返すのがいいと思うので、私は現場においてで、そのままでいいのではないかなと思います。
- ◆勝田鮮二委員長 平野委員。
- ◆平野真理子委員 はい。ここは委員長のおっしゃるとおりでいいと思います。
- ◆勝田鮮二委員長 岡田実委員。
- ◆岡田 実委員 本当に申し訳ないです。教えてください。国・県・法人というのは討論の中で発言が出てきた内容ですか。
- ◆勝田鮮二委員長 事務局その部分、読み上げてもらえますか。
- 福田佳菜議事係主任 はい。国・県・事業所ということになりますので、現場において適切にこの判断を今後されるということになると思いますので、本市としてはそこを見守っていく必要性がというふうに思いますという御発言でした。
- ◆勝田鮮二委員長 西尾委員。
- ◆西尾彰仁委員 はい。先ほど平野議員さんが討論のときに言っておられた国・県・事業所を入れて、においてでされたらどうでしょうか。言った言葉じゃないと出せないということなので、国・県・事業所において。以上です。
- ◆勝田鮮二委員長 そうしましたら、再度確認します。理由としては、国としても検討していくとしており、国・県・事業所において適切に判断されるべきであると考えするため。どうでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二委員長　じゃあ、このようにさせていただきます。その他、何かございますか。先ほどの広報広聴委員会の4人選ばせてもらいましたが、リーダーを決めて。分かりました。そして、もしそういう案がありましたら。では勝田、私がリーダーということでよろしく願いいたします。終わります。お疲れさまでした。

午後2時52分　閉会

# 令和 7 年 9 月 定例会 福祉保健委員会

(議案審査、請願・陳情審査、その他の報告)

日 時：令和 7 年 9 月 19 日 (金)

10:00～

場 所：本庁舎 7 階 第 1 委員会室

## 市 立 病 院

### 1 議案【質疑・討論・採決】

- ・ 議案第 105 号 令和 7 年度鳥取市病院事業会計補正予算 (第 1 号)
- ・ 議案第 120 号 鳥取市立病院使用料及び手数料条例の一部改正について

## 福 祉 部

(市立病院終了後)

### 1 議案【質疑・討論・採決】

- ・ 議案第 100 号 令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算 (第 2 号)【所管に属する部分】
- ・ 議案第 102 号 令和 7 年度鳥取市国民健康保険費特別会計補正予算 (第 1 号)
- ・ 議案第 103 号 令和 7 年度鳥取市介護保険費特別会計補正予算 (第 1 号)
- ・ 議案第 104 号 令和 7 年度鳥取市後期高齢者医療費特別会計補正予算 (第 2 号)

### 2 議案【説明・質疑・討論・採決】：追加提案分

- ・ 議案第 128 号 令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算 (第 3 号)【所管に属する部分】

### 3 請願【質疑・討論・採決】

#### <請願 (新規)>

- ・ 令和 7 年請願第 2 号 加齢性難聴者の補聴器購入に係る公的助成制度創設についての請願

## 健康こども部

(福祉部終了後)

### 1 議案【質疑・討論・採決】

- ・議案第 100 号 令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算（第 2 号）【所管に属する部分】

### 2 議案【説明・質疑・討論・採決】：追加提案分

- ・議案第 128 号 令和 7 年度鳥取市一般会計補正予算（第 3 号）【所管に属する部分】

### 3 陳情【質疑・討論・採決】

#### ＜陳情（新規）＞

- ・令和 7 年陳情第 11 号 保育士配置基準の引上げの早期完全実施とさらなる改善を求める意見書提出を求める陳情
- ・令和 7 年陳情第 12 号 保育所等に対する社会福祉施設職員等退職手当共済制度の公費助成の継続を求める意見書の提出を求める陳情

### 4 その他の報告

- ・休園中の市立保育園（散岐保育園、さじ保育園）の令和 8 年度における対応について  
(幼児保育課)

## そ の 他

(健康こども部終了後)

- ・令和 7 年度議会報告会・意見交換会について